SDGsから見える10年後の会社の未来

「SDGs委員会による組織活性化」

企業におけるSDGsの取り組みが広がるなか、SDGs委員会の活用から社内の課題解決を図る会社が増えている。今回は、SDGs委員会活動としてDXの推進、働きやすい職場環境づくり、またCO_2削減へ挑戦する光和精鉱株式会社の取り組みを紹介します。

シンワラボ 株式会社　代表取締役　加藤 シゲキ

第5回　光和精鉱（こうわせいこう） 株式会社

■代表取締役社長　加納（かのう） 睦也（のぶや）
■本社／北九州市戸畑区大字中原46-93
■TEL 093-872-5155　■URL https://kowa-seiko.co.jp

加納睦也社長

会社概要

光和精鉱株式会社（以下、光和精鉱）は、1961年2月、硫化鉄鉱石を原料に硫酸と高炉用ペレットを製造、同時に鉱石中に含まれる有価金属（金、銀、銅、亜鉛、鉛など）を回収する事業により創業された。その後、設備と蓄積された技術を活用して、製鉄集塵ダストを処理し、高炉用ペレット、セメント向鉄原を製造するほか、産業廃棄物処理に大々的に取り組むという構造転換を行っている。現在は、独自技術である「塩化揮発法」により、徹底リサイクル・資源再利用を実現し、「循環型社会」の構築へ、大きく貢献する会社となっている。

光和精鉱 SDGs委員会について

2021年4月、SDGs委員会の活動を開始。初年度は、外部講師による勉強会からSDGsに関する基礎知識を習得し、活動テーマの選定を行った。2年目から、3つの活動チームを立ち上げ、具体的な活動を開始。現在は、3年目に入り、参加希望の社員が増えたため、委員会メンバーの約半数を入れ替え、活性化を図っている。

工場全景

①業務改善チーム

「各部署で行える活動ではなく、手をつけにくい所をSDGs委員でやりたい。会社全体がSDGsの意識を高めていけるような取り組みをし、社内行動の変化につなげたい」、とのチームメンバーの意見から、ペーパレス化の推進と会社場内の無線ネットワーク化の構築を2本の活動テーマとした。

ペーパレス化は、DX推進により、紙の使用量削減に加え、CO_2排出量とコストの削減についても目標設定を行った。マイクロソフト社Teams活用による資料の共有、会計アプリの導入により、書類や申請書のペーパーレスを実現。同時に社員へのスマホ配布を進め、業務全般でのDX推進を一層、加速させている。また、事務所プリンターを複合機へ集約し、台数減による紙の使用量の削減、両面印刷やモノカラー印刷の推奨、ラベルシール印刷面積の縮小等、あらゆる面での改善活動が効果を発揮している。

場内無線ネットワーク化(図1)は、業務全般のDX推進の必須インフラとして、計画を進めている。物流管理システムの整備や設備保全管理システムの整備、スマートグラスを利用した安全業務の推進、場内見守りシステムの整備を行う上でも、必要不可欠な通信インフラとして認識されている。

図1

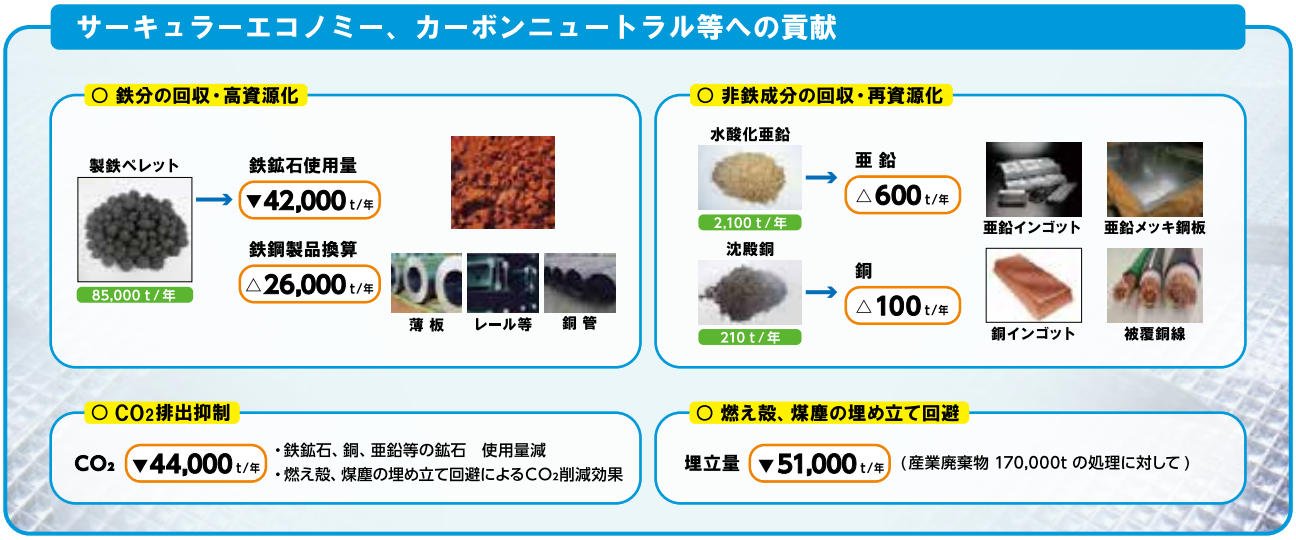

図2

②新規事業開発・CO_2削減チーム

新規事業開発をテーマに発足し、現在は会社全体の脱炭素化・CO_2削減（図2）を目標に活動している。本業である産業廃棄物処理はもとより、社員個人レベルにおける脱炭素活動の啓発も行う。

「CO_2排出量の削減実績により、産廃物の集荷量を増やすこと」を活動目標として設定。他社より産廃処理時のCO_2排出量が少なく、燃え殻の埋め立てゼロ、資源循環を実現することで、結果、環境へ配慮した処理を行う光和精鉱への集荷機会の拡大を目指す。

CO_2削減への取組事例についても研究を重ね、削減方法を①エネルギーの変更、②リサイクル促進、③エネルギー効率の向上、④CO_2回収による排出削減の4点に分類し、光和精鉱独自の施策を提案した。

③働きやすい職場改善チーム

社員が働きやすい職場環境の改善や働き方改革を考えるチーム。従業員を大切にする取り組みを実践することで会社PR、採用、定着率UPに繋げることを目標としている。

光和精鉱では、従業員の健康増進から生産性の向上を図る健康経営を導入し、経済産業省から毎年、健康経営優良法人認定を受けている。特筆すべきは、従業員の健康診断の結果

今年度SDGs委員会メンバー
【写真右:前列左から】吉永文也（九州営業所）・麻生那々子（総務人事課）・百﨑美奈子（製造部）・古市彩子（分析課）【後列左から】佐藤大輔（営業企画室）・岡野哲也（PCB処理課）・小西啓太（DX推進課）・多田朔也（操業技術課）・高橋祐介（操業技術課）・有働康之（総務部長/取締役）
【写真左:前列左から】溝端一史（経理課）・宮本翔平（設備課）【後列左から】田上久美子（九州営業所）・松本悠佑（保全課）

をHPで公表し、継続して健康改善への努力を続けていること。

なかでも食習慣の改善を目指し、設置型社食（写真1）を新設。安価で手軽に購入できることから社員に喜ばれている。こうした福利厚生制度の改善へ取り組み、安全・安心な職場環境を構築し、働き甲斐のある会社づくりをサポートするのもSDGs委員会チームである。

写真1.設置型社食サービス

今後のSDGs委員会の方向性について、全体を統括する有働康之取締役に伺うと「会社の戦略を踏まえ、前年度以上に具体的な会社施策へつながる活動を目指していく」とのこと。若手中心の委員会メンバーによる、部門の枠を越えた活発な議論、ダイナミックな活動が経営陣からも期待されている。

■ 取材ノート

シンワラボ 株式会社　代表取締役　加藤 シゲキ

経済産業省 九州経済産業局 SDGsパートナー機関
https://shinwalab.jp　mail:s.kato@shinwalab.jp

来春の採用について、総務部の麻生那々子氏へ聞くと「来春入社の採用内定者は現在7名。例年に比べかなり人数を増やしている。これは1日（ワンデイ）インターンシップ導入やワークライフバランスの向上(注)（昨年度、有給取得率93.3%。残業時間の短縮とともに年々向上）、独身寮や社宅等の福利厚生制度について、採用媒体や会社説明会で具体的に伝えた結果だと思う」とのこと。

また、光和精鉱では「企業によるSDGs活動」を学びたい他府県からの研修旅行生（写真2）を受け入れている。北九州市からの推薦もあり、広くSDGsの取組みが知られる存在となった。もともと2006年から17年間続く、毎月の社員による地元公園の清掃活動（写真3）を行っている等、地域貢献活動が企業文化の会社である。こうした伝統に加え、今回ご紹介したSDGs委員会が新たな組織風土として実りつつあることを取材から強く感じた。

注.2020年度、北九州市第14回女性活躍・ワークライフバランス表彰『市長賞』を受賞。

写真3.社員有志による毎月の公園清掃活動（若戸大橋を望む大橋公園にて）

写真2.研修旅行で訪れた他府県の高校生へのSDGs授業